

さがみね
三ヶ峯

その1

和牛の放牧
警固祭りの馬も

川長牧場

岩作(やぎこ)三ヶ峯は長久手の東部にあり、日進市、豊田市、瀬戸市に隣接した、市内でも特に自然が豊かな地域です。

今回はあまり知られていない三ヶ峯の姿をお伝えします。

特に和牛の話は興味深く、みなさんにも是非知っていただきたいと、特別版を作りました。



● 長久手に牧場が ●

長久手に牧場があると聞いて機関紙部員は三ヶ峯にある「川長牧場」を訪ね、場長の川本健治さんからお話を伺いました。ここは長久手で唯一の牧場で、現在、和牛と馬をあわせて130頭います。

● もとは酪農農家 ●

三ヶ峯はもともと入植地域でした。酪農農家が8軒ほどあったのですが、現在、酪農農家はありませぬ。川本さんの父親は家畜商でしたが酪農を始め、健治さんの代で和牛繁殖に変更しました。



川本さんを見つけて近づいてくる母牛

● のびのびと放牧 ●

厩舎から少し離れた見晴らしのよい丘陵地に、もとは果樹園だった荒地を借りて毎日放牧しています。放牧しているのは主に妊娠している牛で、難産を防ぐ効果があるそうです。生い茂った草木がそのまま餌になり、水場と塩も用意されて、のびのびと過ごします。

● お産は大変 ●

川長牧場は母牛と、母牛から産まれる子牛を飼育する繁殖農家で、子牛は10カ月前後育てたところで、肥育(ひいく)農家に引き取られます。

和牛の妊娠期間は285日。予定が10日遅れることはざらで、そのときは毎晩泊まり込みです。ところがこのように万全を期しても分娩事故が起きることがあります。

● 最新機器を使って ●

そこで川本さんは分娩事故をなくすために、母牛の遠隔監視システムを導入しました。このシステムは、分娩が近い母牛に体温センサを挿入して体温を5分ごとに測定。「出産が始まる体温変化のパターンが表れた場合」と、「破水した場合」、スマートフォンに通知します。これで夜回りも不要になり、余裕をもって出産に立ち会うことができるようになりました。お話を伺っている最中にもスマートフォンに通知があり、「放牧している牛の体温が1度下がったから出産は明日」ということがわかりました。

厩舎のたくさんの牛と川本さん



(裏面に続く)

●産まれても●

しかし無事に出産に立ち会えたとしてもまだまだ気は抜けません。子牛がお産の過程で羊水を飲んで呼吸困難に陥ることがあるからです。そこで川本さんが取り出したのは羊水を排出させ、肺に空気を送る人工呼吸器キットで、これを使って事故を防いでいるそうです。

●牛も育児拒否?●

産まれた直後に母牛が子牛をなめると母性にスイッチが入るのだそうですが、まれに育児拒否をする母牛もいます。

育児拒否をした牛に会いましたが、2頭目はきちんと育児をしているそうで、私たちが近寄ると子牛を守るような仕草をしました。

●子牛のジャケット●

さまざまな困難を乗り越えた子牛は、冬場ヒーターを入れた小屋を設置し、ジャケットを着せたり、ネックウォーマーを着けるなどして大切に育てられます。



子牛小屋と元気な子牛たち

●牛の戸籍謄本●

ところで、すべての牛には戸籍謄本のような記録があり、その牛の名前、両親、祖父母などいろいろなデータがのっています。面白いのは「鼻紋(びもん)」が採られていることです。鼻は「頭」ことに異なった「しわ」がついており、このしわ模様を子牛のときに写しとって個体の識別に利用されます。

また、牛肉の安全性を示すものとして、国内で育てられたすべての牛に、10桁の「個体識別番号」が印字された「耳標」が両耳に着けられます。その記録は、和牛登録協会のコンピュータ

ーに保存されるので、ネットで調べればその牛の情報を知ることができます。



両耳に黄色い耳標が

●和牛とは何?●

和牛とは、牛の品種に着目した区分で、黒毛和種(90パーセント以上を占める)、褐色和種、日本短角種、無角和種の「4品種」とそれらの「交雑種」のみとし、それ以外は「和牛」と表示することができません。また、松阪牛などの「ブランド牛」は、飼育方法など、ブランドを推進する団体が決めた定義を大切にしながら、その土地ならではの逸品に育てられます。

ここに書ききれないくらいたくさんのお話を伺って、川本さんの牛への思いが熱く伝わってきました。(参考引用●ドコモ、農林水産省HP)

●警固祭りに馬の貸し出しも●

川本さんのもうひとつの顔は11頭の馬を育てて、近隣の伝統的なお祭りに貸し出していることです。今年は18頭分の出番があり長久手は2頭参加します。

長久手の警固祭りは地区ごとの輪番制で今年は長湫地区が行います。標具(だし)を載せた馬を、鉄砲隊や棒隊などが警固し市内を練り歩いた後、景行天皇社、富士社に奉納する勇壮なお祭りです。

馬は綱付き(つなづき)と呼ばれる人たちが曳き、その人たちの指導と馬の調教をするのも川本さんです。お祭りの馬の調教は独特のやり方があり、人間も馬に慣れて呼吸を合わせるため、牧場周辺で何回も特訓をします。

今年は全員の心がひとつになってこそお祭りが成功するという誓いを込めて、おそろいの法被に「一祭同心(いっさいどうしん)」と染めました。

警固祭りは10月の第二日曜日です。今年は馬と綱付きの人たちが頑張る姿に是非注目してください。

晴れ舞台
ちょっと緊張するなあ



標具を載せた馬と綱付きの人たち
写真提供 長久手市

着飾ったボクを見てね!

